

苦しんでいる人を救いたい。  
それはすべての人に共通する思いです

## 平成 30 年度



## 第 36 回 「NHK 海外たすけあい」 事業報告

### 概要版



## 「NHK 海外たすけあい」平成 30 年度の実績

1983 年 2 月に NHK と日本赤十字社の共催ではじまった「NHK 海外たすけあい」募金キャンペーンは、平成 30 年度で 36 回目を迎えました。皆様からいただいたご支援はキャンペーンが始まってから今日までに、累計 258 億円に上り、世界 157 カ国の支援を必要とする人々に届けられました。

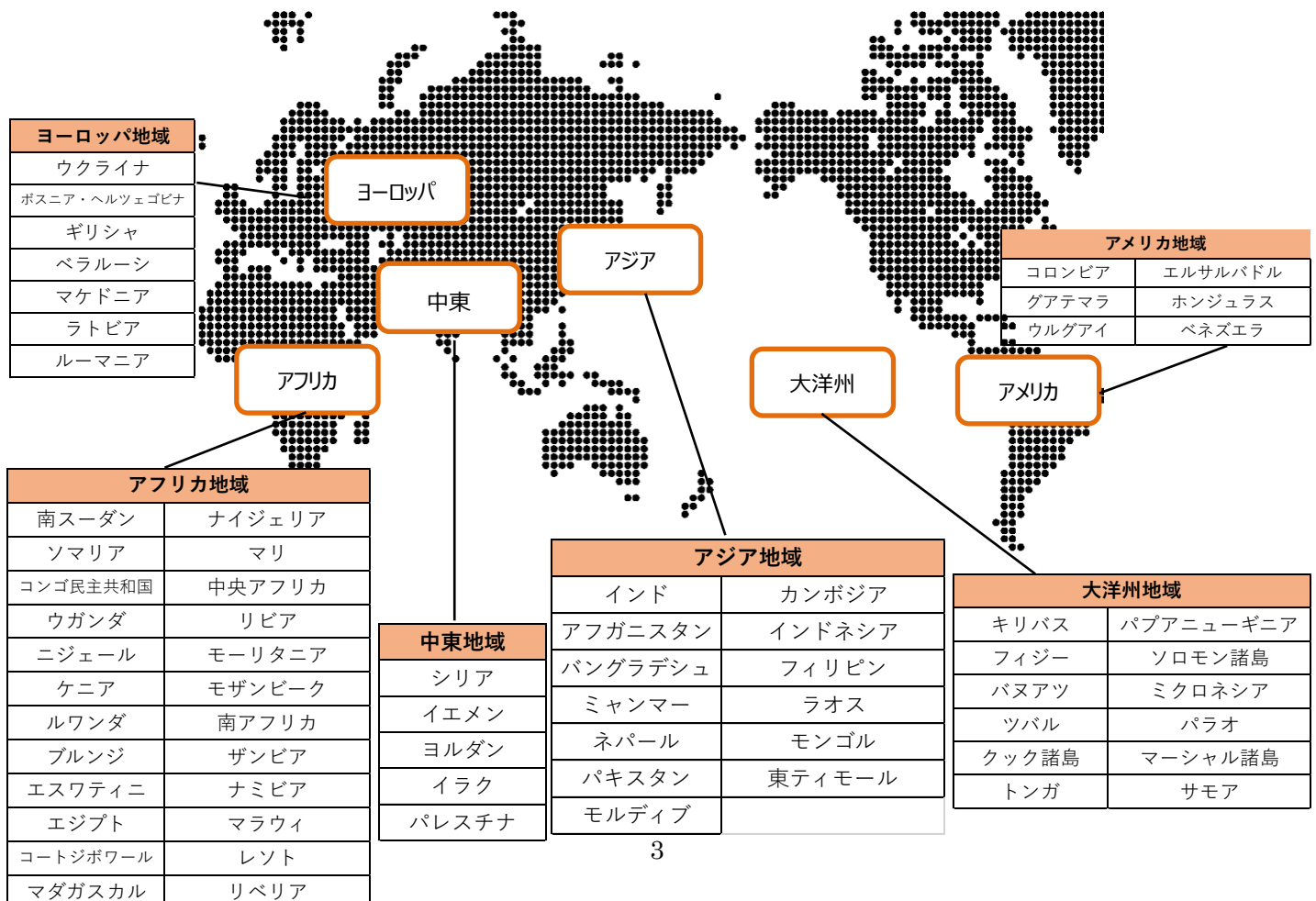
平成 30 年度の募集実績

- 寄付件数 **76,860 件** ※個人・法人を含む
- 実績額 **6 億 3,609 万 5,488 円**

皆様の心温まるご支援・ご協力に厚くお礼申し上げます。

平成 30 年度の支援地域

災害時の緊急救援や紛争地での救援活動から復興支援、開発協力まで世界 67 カ国で支援活動を実施しました。



## 紛争で苦しむ人への支援



患者搬送を行う日赤医師（南スーダン） ©ICRC

シリアでは、2011 年以来紛争が続いており、未だに 1,170 万人が人道支援を必要としています。620 万人の国内避難民は避難所や他の人の家、または路上で生活をしています。南スーダンやコンゴ民主共和国でも武力紛争後の情勢不安により、人々が避難民・難民となり、医療や飲料水の制限等苦しい生活を強いられています。平成 30 年度、日本赤十字社は紛争で苦しむ人の支援のため延べ 80 人の職員を派遣し 30 カ国へ資金提供を行いました。世界の赤十字社の中でも、経験ある医療者を数多く擁する有数の赤十字社として、パレスチナからの避難民を受け入れるレバノン国内の病院の医療技術支援や、バングラデシュ南部ではミャンマーからの避難民キャンプで医療支援に従事する職員への技術支援等を行いました。



助産師への指導（バングラデシュ） ©IFRC



家族のニーズを開くボランティア（シリア） ©Syrian Arab Red Crescent

### 武力紛争と赤十字

赤十字は 1864 年、スイスで発祥しましたが、もともとは紛争地での中立な医療活動を提供するために生まれました。現在、各国・地域の赤十字・赤新月社の数は 191 に広がっています。世界各地で武力紛争が長期化、複雑化する現代において、赤十字はそうした世界中のネットワークを生かし中立的な立場での犠牲者の支援に重要な役割を果たしています。



北東部の紛争により難民となった女性に食料等を届ける国際赤十字の職員（ナイジェリア） ©IFRC

## 災害で苦しむ人への支援



**災**害の発生自体をなくすことはできませんが、被害を軽減させることはできます。日本赤十字社は、発災直後の緊急支援、その後の復興支援、そして災害に見舞われた地域の住民が自分たちの力で立ち直り、将来の災害に備えるためのレジリエンス\*の向上等、様々な形で支援を行っています。

### ボランティアの活躍

世界中の1,000万人を超える赤十字ボランティアは赤十字・赤新月社の資産です。緊急救援だけでなく、平時には住民と連携し次の災害に備えるなど、すべての活動の中心です。日本赤十字社は各国のボランティアの育成にも協力しています。



### すべて持参～緊急対応ユニット(ERU)

国際赤十字が世界で展開するERU (Emergency Response Unit)。テント、発電機、トイレから食料品まで救助活動に必要な装備品を準備し、訓練を受けたスタッフと共にいつでも出動できる体制をとっています。医療の他にも、給水、ロジスティック、IT、住居基地のユニット等があり、各国赤十字が互いに協力しながら活動しています。「現地に負担をかけない！」が基本です。



※レジリエンス(回復力)とは、災害などの予期せぬ惨事を予測し、被害を未然に防ぎ、適切に対応し逆境から回復するための一連のプロセスで、赤十字が重視している草の根の取り組みの一つです。

## 病気で苦しむ人への支援



手洗いの重要性を伝える (バングラデシュ) ©IFRC

日本赤十字社は、国内に 91 の病院を持つ医療の専門家集団！世界の赤十字の医療・保健分野で大きく貢献しています。高度な医療を持ち込むのではなく、被災地のニーズに応じて巡回診療にも力を入れています。疾病から命を守るには、「自らの命と健康は自分で守る」という意識を一人ひとりが持つことが何より大切です。住民に根付いた生活習慣や文化をよく理解したうえで、「予防」の大切さを広めるために、住民を惹きつけ、まずは耳を傾けてもらえるよう移動式映画館を企画する等、趣向を凝らした取り組みを行っています。また、病気やケガを負った人だけでなく、家族やそれまでの生活を失い、精神的な傷を負った人にも、地元の赤十字・赤新月社のボランティアと力を合わせて、現地の言葉で語りかけ、寄り添いながら、こころのケア活動を展開しています。

赤十字の研修を受けて、傷ついた人々にどのように声をかけ支えるかを学ぶことができました。



ミナラさん (バングラデシュ)



避難民キャンプの仮設診療所での診療活動 (バングラデシュ) ©日本赤十字社



ラジオ放送を通じて防災知識を伝えるボランティア (ルワンダ) ©日本赤十字社

### 国際活動を担う人材の育成

日本赤十字社ではオンライン学習のほか、集合型研修を実施し、人材育成を行っています。養成された人材の中から、平成 30 年度には述べ 85 人が海外に派遣されました。

## 支援金の使途詳細 (単位:円)

### 【収入】

平成 30 年度収入合計	<b>711,100,853</b>
(前年度繰越金)	75,005,365
平成 30 年度 (第 36 回たすけあい募金額)	636,095,488

### 【支出】

平成 30 年度支出額合計	<b>711,100,853</b>
紛争で苦しむ人への支援	<b>320,877,010</b>
(内訳)・バングラデシュ南部避難民への支援	54,383,686
・中東地域の紛争犠牲者への支援	156,702,413
・アフリカ地域の紛争犠牲者への支援	54,500,776
・アジア地域の紛争犠牲者への支援	12,301,171
・中米、東欧地域の紛争犠牲者の支援	42,988,964
災害で苦しむ人への支援	<b>258,628,038</b>
(内訳)・地震や洪水やハリケーンによる被災者の支援	75,635,822
・アジア・大洋州における災害対策・防災事業	87,234,144
・緊急時に即時に対応するための救援物資備蓄、体制整備等	95,758,072
病気で苦しむ人への支援	<b>80,363,180</b>
(内訳)・感染症で苦しむ人の支援	27,890,875
・保健医療、救急法等支援事業	8,708,772
・支援主体となる地域・現地赤十字社の組織強化事業	43,763,533
NHK 海外たすけあい募集資料等作成費	<b>38,165,729</b>
(翌年度繰越金)	13,066,896



皆様の心温まるご支援に厚く御礼申し上げます

日本赤十字社  
東京都港区芝大門 1-1-3 電話 03-3437-7087